

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104548
法人名	医療法人 敬天会
事業所名	グループホーム いしき
訪問調査日	平成 20 年 7 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104548
法人名	医療法人 敬天会
事業所名	グループホーム いしき
所在地	鹿児島県鹿児島市伊敷台4丁目34番50号 (電話) 099-229-1010
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年7月10日   評価確定日   平成20年8月11日

## 【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 22日
ユニット数	2 ユニット   利用定員数計 18 人
職員数	17 人   常勤 16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 16.5 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	9000円 光熱費	
敷金	無	その他の経費(月額)	9000円 ベッド・タンスリース	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	75歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今給黎総合病院・伊敷台内科・くすき歯科・延寿堂クリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいしきは、閑静な住宅街にあり、同法人の介護付有料老人ホーム・通所介護施設が隣接している。昨年度から、隣接施設の栄養士が献立を作り管理されている。また医療連携ができており、利用者の急変時にも、医師の往診や点滴をするなどの医療を受けながらの生活支援をしているので、本人・家族は、安心して生活している。職員も、よい人間関係が作られ、利用者と一緒に、明るく・楽しい生活の支援を心がけサービスのケアに取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価は、改善計画を立て取り組んでいるが、継続されていない。外部評価を活かし、継続して具体的に取り組み、サービスの向上に努めることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、1ヶ月かけて職員に聞き取って、取り組んでいる。来年度は、各職員から吸い上げられた自己評価の取り組みを勧めます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2~3ヶ月毎に開催している。民生委員・地域包括支援センターの職員の参加があり、事業所の報告をし、意見助言を頂いている。自治会加入について、助言していただき努力している。今後、幅広い立場の方々の参加する会議になるよう期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情・相談について、意見箱を設置している。家族の面会時、家族からの相談・意見を聞いている。家族からの相談・意見等は、申し送り簿で、職員は共有している。家族参加の行事等の後に、家族だけで話し合う場面作りをされたりして、家族からの意見を頂く工夫を望みます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入させて頂けるよう、民生委員の協力をもらい働きかけている。地域の小学校・保育園との交流をしている。グループホームだより「いしき通信」などを地域の方々にも配布して、グループホームを知っていただき、地域の方々の協力が得られるように努めることを期待します。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の改善点に上げられ、開設当初からの理念に、「グループホームのケアのあり方、役割、課題を地域に発信し、地域で支える街づくりに貢献します」と新しい文言を付け加えて作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝、理念を唱和している。管理者・職員は、地域密着型サービスとしての理念の「グループホームのケアのあり方、役割、課題を地域に発信する」等が、実践に向けて取り組んでいるとは、言い難い。	○	地域密着型サービスとしての理念を、日々利用者に関わる際に、具体的に意識して、取り組むことを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入させて頂けるよう、民生委員の協力をもらい働きかけている。地域の小学校・保育園との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価は、改善計画を立て取り組んでいるが、継続されていない。自己評価は、職員全員で1ヶ月かけて、取り組んでいる。	○	外部評価を活かし、継続して具体的に取り組み、サービスの向上に努めることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月毎に開催している。民生委員・地域包括支援センターの職員の参加があり、事業所の報告をし、意見助言を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>広報誌を作成し、包括支援センターなどに配布している。市の担当者に、相談したり 包括支援センターとの連携ができています。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶり・健康状態や職員の異動など、毎月いき通信(ホームだより)で、担当者が報告している。金銭管理は、預かり帳のその月分を毎月郵送して、報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情・相談について、意見箱を設置している。家族の面会時、家族からの相談・意見を聞いている。家族からの相談・意見等は、申し送り簿で、職員は共有している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は、オレンジのユニホームを着て、ケアを行っている。2ユニットで行事など一緒に行っているため、職員は、顔馴染みになり、職員のユニット間の異動では、利用者のダメージは少ない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に、参加しているが、過去1年の報告記録がなされていない。内部研修は、年間計画は作成していないが、月1回のミーティング時に、身体拘束などの勉強をしている。職員は、AEDの講習を受けている。</p>	○	<p>内部研修の研修内容に偏りがないように、年間計画を立てられ、職員の介護サービスのケアの質の向上に、活かされることを期待します。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会への参加をしている。職員の地域のグループホームとの交流は、していない。</p>	○	<p>職員が、他のグループホームと相互訪問や勉強会をすることにより、日々のサービスの向上や職員育成に役立つ実践的な交流を期待します。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の入所前に、利用者とお茶の時間を一緒に過ごしたり、遠足などの行事に参加してもらい、グループホームの雰囲気に馴染んでもらっている。入所時は、今までの生き方・趣味などを取り入れて、かかわりをもっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫の得意な方には、裾上げ・ゴム替えなどお願いしたり、花活けの得意な方には、花活けをしていただき、玄関に飾ってある。絵描きが得意な方には、花々を描いていただき廊下の壁に飾ってある。また、お風呂場などで職員が利用者から励ましてもらう場面もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の方との会話の中から希望・意向を把握している。入居時は、アセスメントからも把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングのとき、担当職員からの意見を聞いたり、面会時、家族からの意見を聞いて介護計画を作成している。主治医からの意見も取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングをしている。短期計画は、3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化時は、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医の往診を毎週してもらっている。利用者の入院時、早期退院に向けて働きかけ、医療を受けながらの生活支援をしている。家族の要望があったら病院受診に付き添っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医になっている。家族の要望があったら病院受診に付き添い、家族へ電話で結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針・重度化した場合の対応にかかる指針を作成している。終末期のケアを当ホームで支援できる段階まで支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、さり気なく声かけてケアをするよう心がけている。個人記録等の取り扱いは、スタッフルームでしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、全員一緒ではなく、夜の睡眠の状態、無理に起こさずゆっくり朝食を摂る方もいらっしゃる。馴染みの美容院に付き添ったり、御菓子・日用品の買い物に付き添ったり、希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量にあわせて、調理の下準備・片付けしてもらっている。職員と一緒に食事をしている。弁当を頼んで、遠足に行っている。うどんやそばが人気があり、美味しく食してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、気の合った者同士でおしゃべりしながら入浴を楽しんでいる。2つのユニットで交互に入浴日を決めてあり、急に入浴を希望されても、他のユニットで対応できるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり・畳んだり、食器の片付け、洋服の裾上げ・ゴム通しなど利用者の力量にあった役割をしてもらっている。昔の映画鑑賞や歌をうたったりして楽しんでいる。月に1回ほど道の駅・ドルフィンポート・公園などにドライブに出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って買い物・散歩に出かけている。毎月、ドライブに出かけたり、年に2回、家族にも声かけして桜やコスモスの花見に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵はかけていない。外出傾向のある方は、一緒に散歩したり、ドライブをしている。1階と2階の行き来は、自由にできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練をしている。夜間想定・地震想定訓練は行われていない。非常食・飲料水の備蓄は、なされていない。	○	職員全員が、自信を持って、どんな時も避難誘導できるように、自主訓練を勧めます。災害時の非常食・飲料水の備蓄を勧めます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が作られている。水分摂取量のチェックがなされていない。	○	水分摂取を促してはいるが、利用者個々の摂取量の把握は、脱水症状の早期発見、病状変化の早期発見に大切なことです。ぜひ、水分摂取量のチェックを望みます。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、日光が入り明るく、エアコンで程よい温度に調整している。利用者が、絵を描いたり、本を読む場所を設けている。テーブルには、季節の花が飾られ、利用者同士でおしゃべりを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からミニタンス・仏具を持ってきたり、畳を敷いてテーブルを置いたり、壁には家族の写真が飾られ、個性のある部屋が作られている。		